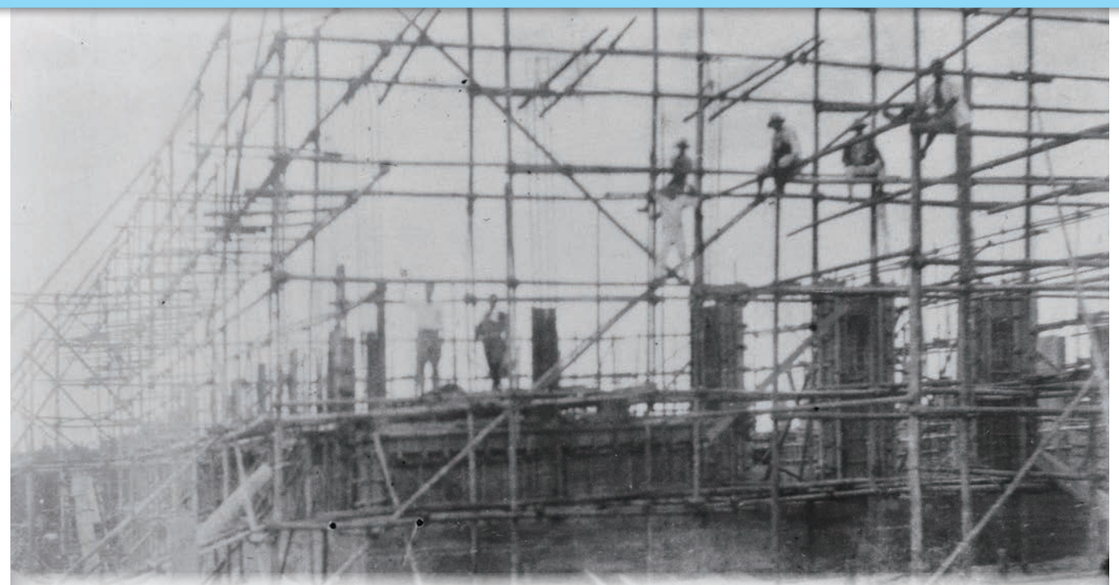
響け念仏　北の大地に

本願寺帯広別院だより

2023（令和５）年 8月号

〒080-0803 帯広市東３条南５丁目３　TEL：0155（23）3720
FAX：0155（21）4989　発行人：輪番・仲尾信博

別院ホームページ
http://www.betsuin.jp/ →



このたびの「帯広別院親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」にかかる事業計画に際し、多くの方に尊いご懇志をお寄せいただいておりますこと、厚く御礼申しあげます。

工事は順調に進捗し、先月末から本堂の壁面と屋根の資材搬入が始まりました。今後は本堂全体を囲むように仮設足場を設置し、11月までの間、塗装並びに屋根裏での宮大工さんによる補修工事をします。また来春には、境内アスファルトの補修、浄華堂屋上などの防水工事をします。工事中はご不便をおかけしますがご協力をお願いいたします。

写真は本堂を新築した際の、基礎ができあがり、コンクリートの柱を造作する工事中の1コマです。大正14年12月に建築趣意書が作成され、昭和4年7月13日に起工式が行われました。多くのご門徒の篤い思いとご懇念により本堂が建立され、これまで受け継いでいただいたことは誠に希有で感謝に堪えません。このたびも無事工事を終え、ご一緒にご法要をお迎えできますよう、重ねてご協力をお願い申しあげます。

8月のご案内

月例布教　お休みいたします
宗祖月忌法要　16日（水）13時〈本堂〉
盂蘭盆会法要・全戦没者追悼法要・浄華堂追悼法要併修　15日（火）13時〈本堂・浄華堂〉

9月のご案内

月例布教　1日～3日13時半〈本堂〉
秋季彼岸会　20日～23日13時〈本堂〉

西田孝司さん 別院門標下の石を修理

長年の雪害により、別院正面入口にある門標（石柱）の下の石が傷んでいました。そこで先日、西田孝司さんが修理してくださいました。西田さんは毎朝お晨朝にお参りされていて、「ずっと気になっていましたからね。好きでやっただけですよ」と謙遜されますが、昨年は竹箒をご寄付いただくなど、別院への篤い思いに感謝いたします。

作業中の西田さん。傷んだ部分をていねいに修理してくださる

自他ともにたいせつな言葉紹介 人我兼利（じんがけんり）

善知識（ぜんちしき）

私たちが普段つかう「知識」とは、知ることや、その内容をさします。

仏教で「知識」は友達や知り合い、親しい人をあらわし、仏縁を結ばせてくれる人や、教え導いてくれる人のことを「善知識」といいます。恩徳讃にある「師主知識の恩徳も」の知識は、この善知識を略したものです。

平安時代の歌人・和泉式部は、先に往生した愛するわが子が、自分に仏縁を結ばせてくれたと気づき、次のように歌ったといわれています。

「夢の世に　あだにはかなき　身を知れと　教えて還（かえ）る　子は知識なり」

皆さんにも、悲しみにくれる日々に仏縁を結ばせてくれた方がおられることと思います。

今年もお盆の季節となりました。ともにお念仏申しましょう。（松原）

御膳料理・仕出し処
しげ吉
★電話 0120-84-2121
御用命は通話料金無料のフリーダイヤル
河東郡音更町駒場本通り3丁目
夜間☎(0155)44-2558(黒川)
株式会社 十勝コミュニティサービス

仕出し屋
十勝はにうの膳
〒089-0535　中川郡幕別町札内桜町136
フリーダイヤル　0120-270-054
TEL：(0155) 27-0010 FAX：(0155) 66-5161

葬儀・家族葬・お葬式は、葬儀社・帯広公益社にお任せ下さい
公益社

公益社市民斎場　公益社中央斎場　公益社メモリアルホール　公益社メモリアル別邸
0120-24-1087

特集 非戦平和
シベリア墓参

お話 下村麗子（しもむられいこ）さん

第二次大戦の終戦直後、当時のソ連は日本人の捕虜や民間人をシベリアやモンゴルに強制連行し、抑留。飢えと寒さの中を苛酷な労働に従事させました。抑留は長期にわたり、日本政府による帰還事業は昭和21年末から31年までかかりました。

帰還者からの聴き取り調査等で、抑留されたのは57万5千人、その内5万5千人の方がかの地で亡くなったと推計されましたが、埋葬地などは不確実でした。

ソ連から確かな情報が出だしたのは平成3年。約3万7千名の抑留死亡者名簿が提示されました。しかし、戦後すでに46年がすぎていました。

今年6月までに、抑留中に亡くなった計約5万1千名の身元が特定されました。しかし、悲しみが止むことはありません。

武力の行使が止まない現在、先人の思いを受けとめ、語り続けてまいります。（編集部）

出征をひかえた父・太吉さん

父の埋葬地にやっとたどり着いた長吉さん麗子さん夫妻

夫の父・下村太吉（たきち）は第二次世界大戦中の昭和18年4月6日、北千島第3地区部隊に招集されました。夫・長吉（ちょうきち）が小学校に入学した年です。ランドセル姿を5日ほど見ての出征だったと聞いています。その後日本は敗戦。太吉は極寒のロシア領東シベリアに抑留され、昭和21年8月28日、わが家に母、妻、子どもを待たせたまま、二度と祖国の土を踏むことなく「病名、赤痢」として病死しました。

昭和50年。北海道第1回シベリア墓参団5名の一員に夫の母が選ばれ、ハバロフスクへ向かいました。米ソ冷戦の時代、見張りは厳しく、決められた行程の墓参しか許されなかったため、父の墓には参れませんでした。

時は流れ、ソ連が崩壊。夫は「母の無念を晴らすチャンスがきた」と言いました。父の眠るムリー地区コサクランボへ行ける墓参計画を知り、夫と私二人は行く決心をしたのです。

夫婦でロシアへ

平成6年6月6日、新潟空港に集まった参加者は27名。結団式、様々な書類を渡され、午後には機上の身となりました。日本海上を北上し2時間も過ぎると、シベリアの大地が見えはじめました。飛行機は高度を下げ、アムール川が大きく蛇行する姿が見えて、日本にはない広大な土地に驚かされました。

間もなく私たちはロシアに第一歩を踏み出しました。ハバロフスクの殺風景な飛行場には、故障した飛行機がテントを被せられ、古びた自動車が多数並んでいます。迎えのバスはエンジンもファンベルトも丸見え。宿泊は眼科専門病院でした。

6月7日、民間団体の平和委員会事務所を訪ね、シベリアの歴史、お墓の場所について説明を受けました。

その後、街はずれにある公園の日本人墓地に。そこには310名が眠っています。皆でローソクを灯して、お花、お酒、タバコなどを供え、故人を偲んで合掌、読経しました。ロシアで初めての墓参ができました。

ハバロフスク郊外の公園にある日本人墓地。ロシアで初の墓参をした

その日のうちに、夫の父が一人寂しく眠るムリー地区コサクランボへ行くため、夜行列車に乗り込みました。

列車を乗り継ぎ念願の地へ

6月8日朝7時、コムソムリスク駅に到着。駅にホームはなく、鎖ハシゴで下車。この駅で、東の終点ソフガワニ駅行き列車に乗り換えます。駅で私たちが次に世話になるコムソムリスク大学生のワロージャ青年を紹介されました。発車して間もなくワロージャは、コサクランボには大きなダニがいて刺されたら命に危険が及ぶと説明しました。しかしコサクランボ特別病院墓地に行かなければ、ここまで苦労して来た意味がありません。私たちは必死に頼みこみ、ワロージャはしぶしぶ承諾してくれました。

コサクランボ駅で鎖ハシゴを伝って下車。私たちは思わず仏さまに合掌しました。コサクランボは小さな集落ですが、当時は鉄道・道路の建設、丸太の切り出し等々の仕事のため、ソ連人労働者、日本人・ドイツ人の捕虜は多く、特別病院もあったため、相当な人口だったそうです。

現地案内人によると駅から1キロほど離れたところに墓地があるとのこと。しかし白樺林に道らしき道はなく、やっと暗い林を抜けると、雑木林の中に古びた墓標がありました。

48年をへて父の墓に参る

皆が墓標のそばに集まりました。見渡すと、土饅頭のような形のたくさんの土盛りがあります。皆それぞれに家族の写真を飾ったり、家から持ってきた思い出の品々を飾りました。私たちは夫の母、妹たちから預かった物を供え、ローソクに火を灯し、線香を焚きました。酷寒の地でろくに栄養もとれず亡くなった父に、私たちは家族をもって幸せに暮らせていること、隣近所にお世話になっていることなど、近況を報告しました。

駅までの帰り道、ムリー川の水を夫と飲みました。父も空腹のとき、暑いとき、寒いときも、故郷の我が家を思いながらこの水を飲んだかと思うと、涙が止まりませんでした。

列車を乗り継ぎ、白樺林の道なき道をぬけ
決死の思いでたどり着いた
コサクランボの墓地付近にて

本特集記事は下村麗子さんのご承諾を得て、平成 29 年にお亡くなりになった長吉さんの手記をもとに、麗子さんのお話を交えて再編集しました。

仏教婦人会 盂蘭盆会

7月13日（木）、仏教婦人会盂蘭盆会に会員23名がお参りされました。「正信偈」お勤めの後、コロナ禍で長らく休止していたお斎をいただきました。お斎には、盆踊り大会に婦人会が出店する予定の豚汁と、お供えのスイカをおいしくいただき、「久しぶりにみんなでいただくお斎は格別ね」「これこそ婦人会の醍醐味よね」などと笑顔があふれました。午後からは常例布教の法縁をよろこびました。

各種団体の行事報告

仏教壮年会 太平の森草刈り

6月も終わりに近づくと気温はぐっと上がり、最高気温は29・6度。6月26日（月）は前日の雨で湿度も高いなかとなりましたが、壮年会の皆さんご協力のもと、太平の森の草刈りを実施しました。普段から刈り払い機や鎌を使い慣れている総勢8名の壮年会員は9時にスタート。森一面をいっせいに刈り上げていきます。途中休憩をはさんでも、正午前には予定の草刈りを見事に完了。今年も見通しの良い広場となりました。

予告！仏教壮年会主催パークゴルフ大会

日時：9月7日（木）9時から受付（雨天中止）
会場：十勝川公園パークゴルフ場（柏葉高校うら）
会費：500円
お申し込み：8月31日（木）〆切、池上・津村

涼風吹く十勝川の河川敷でパークゴルフを楽しみませんか。今年はぜひ久々に多くのご参加をいただきたいと、準備に励んでいます。賞品も多数ご用意しました。皆さんご参加ください。

創業昭和47年の老舗
総合式場、仕出し料理
若竹会舘
帯広市西４条南１丁目　0155-22-8234

手造り料理にこだわり続けて
48年
今後共宜しくお願い致します
帯広市東9条南13丁目1-20
仕出し処 なす
TEL (0155) 22-7431
FAX (0155) 22-7435

ご法話

お浄土はどこにある？

文：仲尾信博

阿弥陀如来のおいでになるお浄土ってどこにあるのでしょうか。

お釈迦さまは浄土三部経のなかで、お浄土の場所についてお説きいただいています。『仏説大無量寿経』（大経）では「現に西方にまします。ここを去ること十万億刹なり」。『仏説阿弥陀経』（小経）では「これより西方に、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極楽といふ」。さらに『仏説観無量寿経』（観経）では「阿弥陀仏、此を去ること遠からず」と言われているのです。

お釈迦さまは、大経と小経では浄土はとても遠い所と説かれ、しかし観経では、お浄土はここから遠くないと説かれています。これでは浄土がいったいどのあたりにあるのか迷ってしまいます。

ちなみに、平安時代の清少納言が著した『枕草子』には、「遠くて近きもの、極楽、舟の道、人の仲」とあり、僧侶でない人々の間にも「極楽浄土は遠そうで近い」と受け入れられていたことがわかります。

さて、観経は序文に「王舎城の悲劇」とよばれる、国王とその息子が憎しみ合い、母である自分も息子に命を奪われそうになる王女韋提希の苦しみがえがかれています。そして、お釈迦さまは、浄土は遠いとして退けるのではなく、苦しみから放たれる浄土に至る様々な法を説かれます。韋提希は教えを聞いていく中で、外に向かっていた自分の思いが徐々に内心に向けられることとなり、自身のドロドロした貪りや愚痴にさいなまれ、心が乱れます。そんな韋提希に、お釈迦さまは心が乱れたままで行う法をさらに説いていかれます。そして、「なんぢよくこの語を持て。この語を持てといふは、すなはちこれ無量寿仏の名を持てとなり」と観経を締めくくられました。

お釈迦さまは、苦しみの真っ只中にいてお浄土を願う修行もままならない韋提希を通して、私たち凡夫にはお念仏を称えることしかできないのではと、阿弥陀如来と一緒に人生を歩んでいく大切さを説かれたのです。

私の口からお出ましいただく南無阿弥陀仏は、遠くではなく近いと感じることのできるお浄土を、観経でお説きくださいました。

永代経懇志ご進納

（ご進納日　6月15日～7月14日）